

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PACKAGE OF INTEGRATED CIRCUIT

Patent Number: JP59227143
Publication date: 1984-12-20
Inventor(s): NISHIKAWA SEIICHI
Applicant(s): DAINIPPON INSATSU KK
Requested Patent: ☐ JP59227143
Application Number: JP19830101317 19830607
Priority Number(s):
IPC Classification: H01L23/12 ; H01L23/28 ; H01L23/48
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To contrive improvement of the mounting density by arranging the lead part of the lead frame on either of the top surface or the bottom surface of the resin sealed body.

CONSTITUTION: The leads 2b are arranged so as to surround a chip bonding part 2a located in the center of the lead frame and one of the leads is formed to be connected to said bonding part 2a. In the center of each lead 2b, a terminal 2c projects vertically to the plane of the frame. After resin sealing 3, the terminal is exposed out of the resin surface and cut by the line CL thereby completing the operation. The exposed part of the lead is subjected to Au gilding or two-layer gilding of Ni and Au and the lead frame and the IC chip are connected by wire interconnection or gang interconnection. This constitution offers the IC suitable for incorporation of IC card especially. By using the projecting shape of the lead 2b, reinforcement of prevention of detachment and the device having high mounting density can be obtained.

Data supplied from the esp@cenet database - 12

③ 日本国特許庁 (JP)
④ 公開特許公報 (A)

① 特許出願公開
昭59-227143

⑤ Int. Cl.
H 01 L 23/12
23/28
23/48

識別記号

庁内整理番号
7357-5F
7738-5F
7357-5F

③ 公開 昭和59年(1984)12月20日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

④ 集積回路パッケージ

① 特 願 昭58-101317
② 出 願 昭58(1983)6月7日
③ 発 明 者 西川誠一

① 出 願 人 小金井市貫井北町2-15-12
大日本印刷株式会社
東京都新宿区市谷加賀町1丁目
12番地
④ 代 理 人 弁理士 猪股清 外3名

明細書の序言(内容に変更なし)
明 細 書

1. 発明の名称 集積回路パッケージ

2. 特許請求の範囲

1. リードフレームのリード部にICチップが接装された上で樹脂モールドが施され、次いで前記リードフレームの不装部分が切断されることにより構成される集積回路において、前記リードフレームのリード部を樹脂モールドの後面に露出させたことを特徴とする集積回路。
2. 特許請求の範囲第1項記載の集積回路において、前記リード露出部分は金メッキ層で被覆されてなる集積回路。
3. 特許請求の範囲第1項記載の集積回路において、前記リード露出部分はニッケルメッキ層および金メッキ層の2層メッキ層で被覆されてなる集積回路。
4. 特許請求の範囲第1項記載の集積回路において、前記リードフレームと前記ICチップとは

ワイヤボンディングにより接装されてなる集積回路。

5. 特許請求の範囲第1項記載の集積回路において、前記リードフレームと前記ICチップとはワイヤボンディングにより接装されてなる集積回路。

3. 発明の詳細な説明

本発明は集積回路パッケージに関する。

近年電子回路の代名詞的存在となつた集積回路は、半導体素子等により構成されたICチップ、このICチップの端子を外部に接続するため及び集積回路を機械的に支持するためのリード、ならびにICチップの固定およびICチップとリードとの接続部分の固定、さらに集積回路全体のハウジングとしてのパッケージからなつている。

このパッケージには樹脂タイプのものとセラミックタイプのものがあり、まず樹脂タイプのものは第1図または第2図に示すような構造となつている。第1図(a)、(b)のものはデュアルインライン

パンチーフ(1P)と呼ばれ、ICチップ1をリードフレーム2上に設置してICチップの端子とリードフレーム2のリードとをワイヤボンディングした上でICチップ1およびICチップ1とリードとの接続部分を樹脂モード3により封止してなる。また図2図のものはフラットパンチーフと呼ばれ、リードフレーム2のリードが平面内に引き出されている。

一方セラミックタイプのものは図3図(a)、(b)に示すように、ICチップ1をセラミック基板4上に設置してICチップ1の端子をセラミック基板4の周縁に設けたメタライズ層5にワイヤボンディングし蓋6を被せてなるものである。

これら樹脂タイプおよびセラミックタイプの集積回路はそれぞれ長一短があるが、コスト的に見た場合には樹脂タイプのものが通かに利用し易い。

しかしながら、樹脂タイプのものはリードが集積回路の側方に出るため、いくつかの集積回路を所定面積域内に並置しようとする場合に実装密度

が上げられないという欠点がある。

本発明は上述の点を考慮してなされたもので、リードを適正、適度の少くとも一対に設けてなる樹脂モード型集積回路パンチーフを提案するものである。

以下図4図乃至図11図を参照して本発明を実施例につき説明する。

図4図は本発明の集積回路に用いるリードフレームの一例を平面形状で示したものであり、中央部にICチップ1を設置するためのICチップマウント部2。が設けられ、このマウント部2。を囲んでリード2bが8個設けられている。リード2bの1つはマウント部2。に接続されている。そして、各リード2bの中央部には端子2。が設けられている。この端子2。はリードフレーム2の平面に対し垂直方向に突出して、後に樹脂モード3が施された状態で樹脂表面から突出するようになっている。

そして切断Cで切断されることにより1つの集積回路が出来上がる。

図5図(a)、(b)は本発明に係る集積回路パンチーフの外観形状を示したもので、同図(a)はリード2bの樹脂モード側方への突出部分を切断したもの、同図(b)は適当の長さだけリード2bを短縮したものを示している。これらは何れも外観形状等との差を主として端子2。により行うからリード2bの長さはいずれも集積回路を固定するために必要な程度でよく、また固定を接着等の他の手段によつて行うことにより集積回路の実装密度を向上し得る。なお、リード2bを集積回路の固定に利用すれば耐熱防止効果を得られる。

図6図(a)、(b)、(c)は図4図のリードフレームを用いて構成した本発明に係る集積回路の側断面形状を示したもので、同図(a)は端子Cが樹脂モード3の樹脂表面から突出した例、同図(b)は端子Cが樹脂表面と同一面をなす場合、同図(c)は端子Cが樹脂表面より窪んでいる場合をそれぞれ示している。各場合とも端子2。の表面には金メッキ等を施しておくことが好ましい。

これら各場合ともICチップ1はリードフレ

ーム2に対し端子2。と反対側に設けてある。これは、ICチップ1を端子2。と同一側に設けた場合、端子2。の突出寸法をICチップ1の高さよりも大としなければならず、それにはリードフレーム2の厚厚をかなり大にする等の対策が必要なのである。したがってマウント部2。をリード2bより一段下げる等のICチップ1の取付がより低くなる手段を講じるか、あるいは端子2。をリードフレーム2とは別個に製作しリードフレーム2上に付着させる方法を取るかすれば、ICチップ1と端子2。とをリードフレーム2の同一側に配しても差支えない。

図7図(a)、(b)はリードフレーム2を折曲げ成形することにより端子2。を形成した場合の集積回路の側断面形状を示したもので、同図(a)が端子2。の突出したもの、同図(b)が端子2。が突出しないものを示している。

図8図(a)、(b)は上述のワイヤボンディングと異なり、ダイレクトボンディングによりICチップ1とリード2bとを接続してなる集積回路の例を示

しており、第2図(a)の場合には端子2、が底層モールド3の半導体層から突出した部、第2図(b)の場合には同一部を示す例である。図示しないが第6図(c)の例のように端子2、が底層表面より突出したものも勿論可能である。

第9図(a)、(b)はギヤング・ギンディングによる第7図(a)、(b)に相当する構造の無接点形状を示したものであり、1Cチップ1が底層リード2、に接続される外は第7図と同様である。

第10図(a)、(b)は第9図(a)、(b)の無接点部の平面形状を示したもので、リード2、の1Cチップ1側の端部は1Cチップ1の端子に位置合わせできるように無接点部が最近し且つ尖つており、1Cチップ1の端子に直接接続される。そしてリード2、のパッケージから突出した部分には短く底層形成されている。

第11図(a)、(b)は上述の無接点部を1Cカードすなわちプラスチックカードに無接点部を形成したもので、例えば銀行の自動支払機等において使用されるものに形成した例を示している。上述の無

接点部10はプラスチックカード上の無接点部を第2図(a)に示すように配される。そして無接点部を底層で示したのが第2図(b)であり、無接点部10は無接点部によりカード2、の一方のオーバーレイ5に形成される。カード2、は一方のセンターコア4、4が貼り合わせたもの又は一枚のセンターコアに一方のオーバーレイ5、5が貼着されてなり、センターコア4とオーバーレイ5との間に印刷が施されている。カード2、の全厚みは0.6〜0.8mmであり、無接点部10はそれよりも厚く製作できるから、カード2、の面と無接点部10の面を同一面とすることは容易である。

このカードは所定のカード読取機に投入されると端子2、を介してカード読取機と無接点部との間での信号授受が行われ、カード読取される。

本発明は上述のように、無接点部の底層部に端子を有するようにしたため、常に1Cカード読み込み時に通した無接点部が得られる。そして、この1Cカードの読み込み時にはリード2、が無接点部部から突出したものを用いれば接触防止のため

の保護が行われる。またカード以外に適用しても無接点部の実装密度を向上することができる。

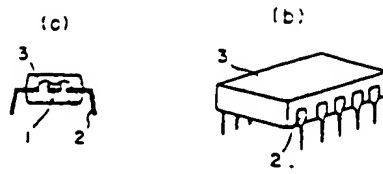
4. 図面の簡単な説明

第1図(a)、(b)および第2図は従来の無接点タイプ無接点部の構造説明図、第3図(a)、(b)は同じくセラミックタイプ無接点部の構造説明図、第4図は本発明に係る無接点部製作に用いるエフテンで端子を設けたリードフレームの一例を示す平面図、第5図(a)、(b)は本発明に係る無接点部の外観形状を示す図、第6図(a)、(b)、(c)は第4図のリードフレームを用いて形成した無接点部の断面構造を示す図、第7図(a)、(b)は折曲げにより端子を形成したリードフレームによる無接点部の断面構造を示す図、第8図(a)、(b)および第9図(a)、(b)はギヤング・ギンディングによる無接点部の断面構造を示す図、第10図(a)、(b)はギヤング・ギンディングによる無接点部の平面構造を示す図、第11図(a)、(b)は本発明に係る無接点部を1Cカードに適用した場合の説明図である。

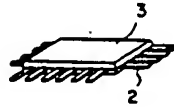
1…1Cチップ、2…リードフレーム、2a…1Cチップマウント部、2b…リード、2c…端子、3…底層モールド、4…セラミック基板、5…メタライズ電極、6…層、10…無接点部、21…カード。

出願人代理人 花 設 清

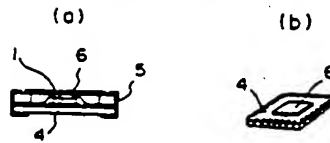
第1図



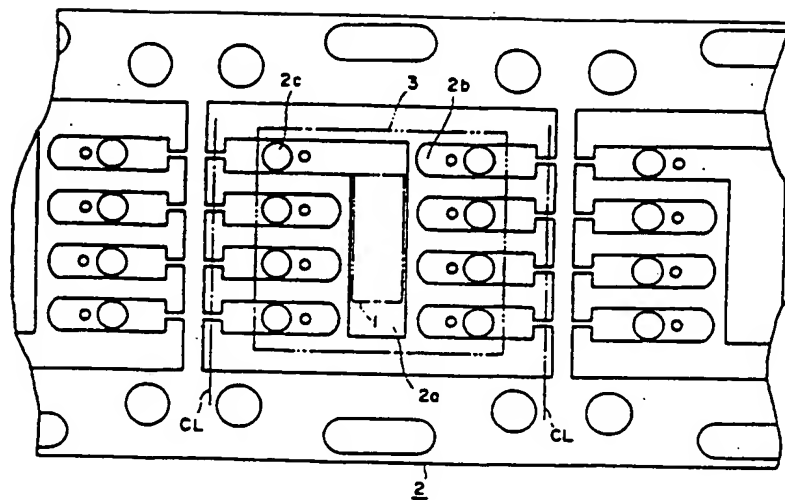
第2図



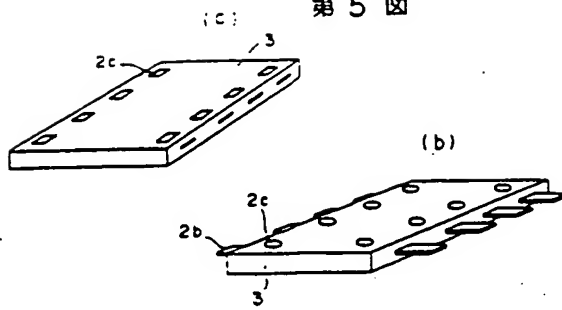
第3図



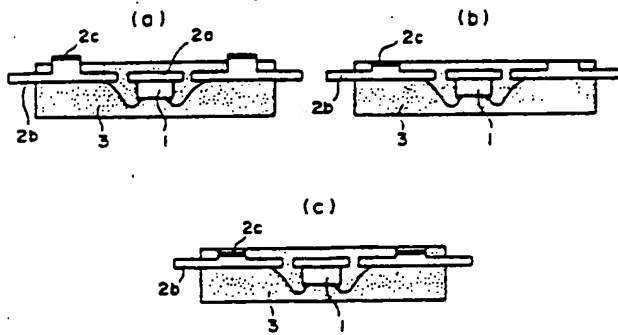
第4図



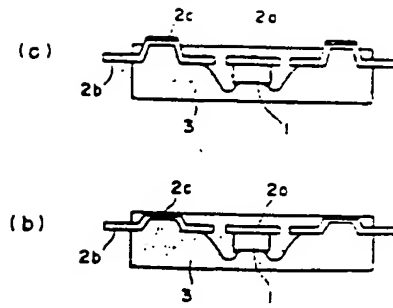
第 5 図



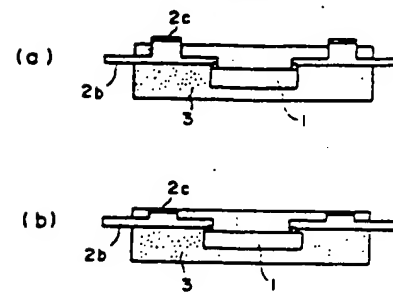
第 6 図



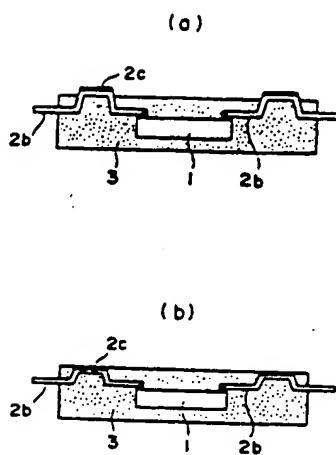
第 7 図



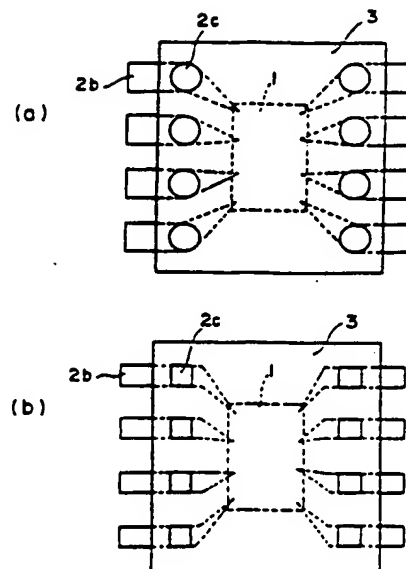
第 8 図



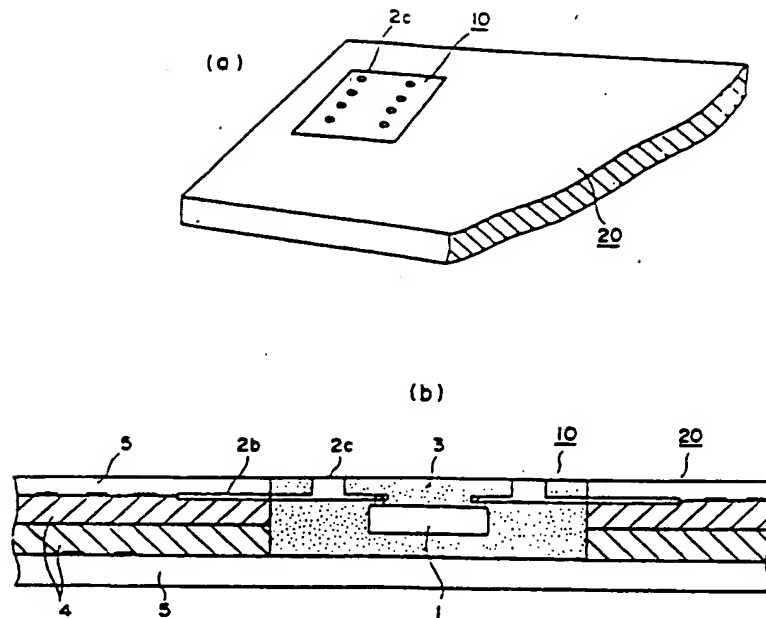
第 9 図



第 10 図



第11図



手続補正書

昭和58年7月7日

特許庁長官 斎藤和夫殿

1. 事件の表示

昭和58年特許第101317号

2. 発明の名称

無機塩基パッケージ

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

(289)大日本印刷株式会社

4. 代理人

(特許番号 100)

東京都千代田区丸の内三丁目2番3号

【電話東京(211) 2321(大代表)】

4330 弁護士 齋藤 隆 殿



5. 補正命令の日付

昭和58年7月7日

6. 補正による変更の範囲

7. 補正の対象

明細書および図面

8. 補正の内容

明細書および図面の修正(内容に変更なし)